京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
「『生きる』教育」プロジェクト

単元「10歳のハローワーク」 指導案

※以下でご提案しているのは、一つの例です。先生方の目標や子どもたちの実態に合わせて、適宜、アレンジして実践していただければ幸いです。

※[ ]内の数字は、ウェブサイトに掲載しているファイルのナンバリングを示しています。

教科	総合的な学習の時間	学校段階・学年	小学校・4年
単元名	10歳のハローワーク		
単元の時間数	全6時間		

単元目標

・現在の自分自身を振り返り、ありのままの自分を共有し合い、他者と交流することで自分と相手の共通点や相違点を見つけ、互いの違いを認め合う。
・自身の将来を思い描くことで、目標とする職業観を持ち、目標達成のために必要なことを考えて努力しようとする。
・自身の生い立ちを振り返ることで、過去の記憶を整理し、現在の自分を見つめ、未来へつなぐ人生設計を考える。

単元の指導の流れ

	教師による指導	子どもの活動、反応例	教材・教具など
1次	今の自分を知ろう：10歳のハローワーク		
第1時	いろいろな「仕事」について知ろう ①どれだけの職業が関わっているのか？ ・お菓子の箱を提示し、「このお菓子を売るために、どれだけの職業が関わっているのか」を問いかける →予め、「原材料」を載せておくなどして考えるためのヒントを与える →原材料、商品、販売など、様々な面に意識が向くよう声掛けを行う	実際の商品パッケージなども見ながら、グループで考える	授業用スライド[0-1] 「チョコレートクッキーが手に入るまで」ワークシート[1-1]
	②どんな職業があるのか？ 本やインターネットサイトなどを提示し、子どもたちと職業を出合わせる ・	インターネットや図書室の本などで職業調べを行い、その仕事内容や生活、就職までの道のりをまとめる	職業調べプリント[1-2]
2	③職に就くためには？ ②で調べた職に就くためには、様々な方法で試験があることを伝え、その体験として履歴書記入と面接ワークを行う ・履歴書ワーク ・面接ワーク（悩み相談） 嬉しかったことやできるようになったこと	履歴書に書いたことをもとに、1対1で面接を行い、相手へのメッセージ	授業用スライド[0-1] 履歴書ワークシート[2-1] メッセージ記入用ふせん[2-2]

	に加え、「困っていること」を共有する機会を設ける。(*1)	を書く	
2次	**未来を描こう：この先 10 年の将来設計**		
3	「未来の自分」をえがこう ①10 歳以降の「自分」はどんな自分？ ・前時で調べたことをもとに、未来年表を作成し、紹介させる		未来予想図シート[3-1]
4	②未来の自分のために、「今の自分」に必要な力は、どんな力？ ・「ほしい力オークション」(*2) 希望の職業や、描いた将来像に近づくために今の自分に必要な力を考えさせる	自分が欲しい力や手に入れた力を整理し、それを現実のものとするために今日から頑張ることを考える	ガベル（木槌）[4-1] ほしい力カード[4-2] オークションワークシート[4-3] チップ[4-4] 振り返りシート[4-5]
3次	**過去を整理しよう：10 年分の自分史作成**		
5	「今」の自分を整理しよう ①「10 歳の自分」はどんな自分？ ・好きなものや周りにいる人、大切なものなど、今の自分に関することを整理させる ・生まれた日から小学校 4 年生（現在）までを振り返り、自分史を作成させる(*3)		10 歳のわたしシート[5-1] 自分史作成シート[5-2-1] 自分史作成メモ[5-2-2]
6	②「10 年後の自分へ」何を伝えたい？ 例1）10 年後の自分が読み返した時に懐かしく思えるように、今の自分のことについて書く 例2）未来の自分を想像して予想した内容を書いたり、未来の自分への励ましやメッセージを書く		10 年後の自分への手紙[6-1]

留意点

・(*1)履歴書ワークでは、簡単な自己紹介と併せて、今悩んでいることや、今まで打ち明けたことのなかった話なども盛り込んで伝えたい場合は伝えられるようなデザインにしてあります。「クラスメートに知られてもいいと思う内容」を話すよう伝えつつ、開示したい児童がいれば正直に自分の気持ちを伝えられるような支援が求められます。また、面接後にはお互いにメッセージを書き合いますが、相手が「話してよかった」と思えるようなメッセージを書けるように事前の声掛けや支持的な集団づくりも重要です。

・(*2)オークションのほしい力リストには約 40 種類の「ほしい力」を掲載していますが、「ほしい力」の種類は子どもたちの実態に合わせて増減させてください。また、同じ力をほしいと思う児童が多数想定される場合に備えて、同じカードを複数枚用意しておくことも推奨されます。

・(*3)配慮が必要な児童には、事前に関係者への確認や相談をしたうえで、授業時間外などに個別に聞き取りを進めるなどの対応が考えられます。その際、聞き取りの記録を取ってもいいかどうか、その記録をもとに自分史シート

を作成してもいいかなど児童本人に確認をすることが必要です。ここで重要なのは、自己開示を促すことではなく、「空白の記憶や誰にも言ったことがなかったつらい過去や寂しい気持ちを聞き取り、言語化したものを確かめ合うことでその思いを共有すること」です。話したくないことは話さなくてもよいことを前提に、児童が強いられてきた我慢や寂しさを和らげるきっかけになることを期待して行うワークです。

（作成：田野茜、西岡加名恵）